

(様式 1)

「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成28年度委託事業完了報告書【総括】

都道府県名	和歌山県	番号	30
-------	------	----	----

推進地区名	協力校名	生徒数
美浜町	松洋中学校	157人

○ 実践研究の内容

1. 推進地域における取組

平成28年度全国学力・学習状況調査において、小学校の各教科の平均正答率は、すべての教科で全国平均を下回り、平成27年度と比べ全国平均との差が広がった。中学校は、国語Bを除き、平成27年度と比べて全国平均との差が縮まり、数学Aが全国平均と同程度となった。平成19年度の調査開始以来、国語については小学校、中学校ともに全国平均と差がある。

児童生徒質問紙調査では、「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を中心とした授業改善を進めた結果、「めあて」、「ふり返り」についての質問項目では、改善が進んでいる。しかし、国語科に係る質問項目と家庭学習についての質問項目で、肯定的な回答の割合が低く課題が大きい。

これらの課題を改善するため、平成28年度は、次の(1)～(7)の7つの施策を中心に、学力向上推進を図った。

(1) 若手教員の授業力向上

①主体的・協働的な学びを創る授業事例集【国語編】

「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」（見通し、言語活動、ふり返り）の充実と、国語科における「言語活動を通して指導事項を指導する」ための学習指導の充実を図るため、映像資料及び解説書を作成し、各学校での本資料を活用した授業改善について指導した。

②きいちゃんと学ぶ！国語マスター問題集

学習指導要領に示された国語科の目標及び内容や、全国学力・学習状況調査及び県学習到達度調査において明らかになった課題に対応する基礎・活用問題集を、各地方の優れた国語科の授業力を有する教員が協働で作成し、各学校で活用することで、国語科の課題改善を図った。また、作成に伴う会議を通して、各地方でのネットワークを構築し、国語科研究の充実を図った。

(2) 研修による授業改善

①小学校授業改善研修

平成25年度から4年間で全ての小学校教員を対象に、当県の学力の課題と授業力向上の取組についての共通理解を図り、授業の工夫・改善等について指導した。平成28年度は、568名の教員に対して、算数科の指導方法についての講義と演習を行った。

②小学校教育実践研修

全国学力・学習状況調査結果をもとに小学校教育における現状と課題を把握し、思考力、判断力、表現力等を育成するための実践的指導力の向上を図った。平成28年度は、100名の教員に

対して、算数科の授業実践力の向上を図る研修を、年3回実施した。

③学力向上推進に係る研修

県内全小中学校の学力担当者（各校1名）に対して、学力担当としてリーダーシップを発揮するための視点と学力向上推進のための具体的な取組について指導した。

④地方別国語科研修会

県内全小中学校の国語科担当者（各校1名）に対して、主体的・協働的な学びを創る授業事例集【国語編】及び「きいちゃんと学ぶ！国語マスター問題集」の活用についての研修会を開催し、各学校での国語科の授業改善等について指導した。

（3）改善指導のための学校指導訪問

学力に課題のある学校に、10月から毎月1回、指導訪問を行った。県教育委員会指導主事と市町村教育委員会指導主事が指導チームを編成し、学校全体で組織的に取り組む授業改善等について指導した。

（4）学力定着フォローアップ

優れた教育実践力をもつ40名の退職教職員をアドバイザーとして、学力に課題のある小中学校45校に延べ517回派遣し、各学校の学力向上の取組を支援した。推進地区では、小学校1校にアドバイザーを11回派遣し、学校全体で組織的に取り組む授業改善や、若手教員の指導力向上を図った。県教育委員会指導主事が年2回以上派遣校を訪問し、アドバイザーの指導を支援した。

（5）和歌山県学習到達度調査

県独自の学力調査を平成28年12月6日に実施し、各学校において分析結果を活用して課題の発見と改善を図るよう指導した。「きいちゃんと学ぶ！国語マスター問題集」や教育センター学びの丘ホームページの「チャレンジ確認シート」を活用し、課題の改善に取り組むよう指導した。

また、各学校に、県学習到達度調査を全国学力・学習状況調査とともに、学力向上推進プランの成果指標として活用し、取組の改善を図るよう指導した。

（6）学力調査の活用

①評価問題

全国学力・学習状況調査結果で課題のあった問題を「評価問題」としてまとめ、各学校における授業や補充学習等での活用を支援した。

②評価テスト

全国学力・学習状況調査や県学習到達度調査で明らかになった課題を中心に、「評価テスト」として構成し、各学校で実施した。「きいちゃんと学ぶ！国語マスター問題集」や教育センター学びの丘ホームページの「チャレンジ確認シート」を活用し、課題の改善に取り組むよう指導した。

（7）家庭学習の充実

「きいちゃんと学ぶ！国語マスター問題集」や、長期休業用のプリント集等を作成して配付し、各学校に確認体制の構築を指導した。基礎学力の定着を中心とした家庭学習の充実を図った。

2. 推進地区における取組

（1）「学力向上推進プラン」を活用した学力向上に係る検証改善サイクルの取組

①授業力向上に向けた支援

- ・授業研究会ならびに校内研修会等への指導主事の複数回派遣

「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の一層の充実を図った授業実践を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を通して思考力、判断力、表現力等を育成することを目標に校内研修会での指導・助言を行った。

推進地区内の和田小学校にて美浜町学力向上授業研究会を実施し、和田小学校の研究主題である「学ぶ意欲をもち、主体的に学習する児童の育成～国語科における読む力を高める指導を通して～」に添った国語科の授業及び研究協議で指導・助言を行った。

・外部講師招聘による研修

推進地区全体における教員の授業力向上を図ることを目的にして、外部講師招聘を行った。和歌山県教育庁教育企画監 牧野行治氏を迎え、「就学前からの学力向上の在り方について」と題して講演会を開催し、保幼小中連携を意識した学力向上の取組について指導していただいた。また、大和大学教育学部教育学科准教授 舟橋秀晃氏を招聘し、協力校である松洋中学校の授業研究に対して継続して指導していただいた。

②全国学力・学習状況調査結果の活用（資料1）

全国学力・学習状況調査結果の分析から、児童生徒の学力課題を把握し、課題に対する具体的な取組を早期に実行できるよう支援した。町教育委員会にて分析した町内全体の分析結果を示した上で、各校が自校の分析を行い、課題の改善に向けた取組を実行するように指導した。

取組の推進にあたっては、適宜学校訪問を行い、各校の取組状況を授業参観及び協議にて確認し、児童生徒の学力向上を図るため指導を行った。

（資料1）平成28年度全国学力・学習状況調査結果（4月実施）

【平成28年度全国学力・学習状況調査（平均正答率%）】

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
美浜町	66.1	52.0	76.4	40.3	美浜町	76.7	66.0	65.9	44.6
国	72.9	57.8	77.6	47.2	国	75.6	66.5	62.2	44.1
差	-6.8	-5.8	-1.2	-6.9	差	1.1	-0.5	3.7	0.5

③和歌山県学習到達度調査結果の活用

全国学力・学習状況調査後の授業改善の効果を、12月6日（火）実施の和歌山県学習到達度調査結果により検証し、効果のあった取組について推進地区全体に広めるとともに、課題については推進地区全体で改善策の検討を進めるなど、取組の支援及び推進地区全体の学力向上を図った。

④「Hyper - QUテスト」の活用

協力校である松洋中学校において、「Hyper - QUテスト」を実施した。生徒の学級満足度及び学校生活意欲の分析結果を、生徒一人一人の状況と学級集団意識の把握に十分生かし、生徒へのきめ細かい指導や支援を行うことにより、学習意欲の向上につなげるよう指導した。

（2）小中互見授業の推進による授業改善

小中互見授業の取組を継続させるとともに、「小中連携推進委員会」にて検討した当町での成果や課題等をもとに、9年間の系統性を重視した推進地区独自の学力定着に効果的な授業形態や指導方法を共有した。

①小中学校での学習ルールの統一

校長会及び小中連携推進委員会では各校の児童生徒の状況について情報交換し、学力向上に努めた。本年度の小中連携推進委員会では、学習規律の基盤として「チャイム行動の徹底」を確認した。授業はチャイムで始まりチャイムで終わることに留意することで、児童生徒の授業への集中力を高めさせるとともに教員の授業構成力の向上を図った。また授業展開として、学習の「めあて」と「まとめ」の提示等、「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の徹底を確

認した。このことにより、町内全ての小中学校の学習ルールの統一を図った。

②小中互見授業後の協議の支援

小中相互の課題を早期に発見し、課題解決に向けた推進地区共通の取組を進めることを目標に支援を行った。互見授業については、5月末から2月中旬までにはほぼ全教員が実施した。本年度は、「授業内容及び指導方法」「児童生徒の様子等」に視点を定めて参観するようにした。また小中学校間だけでなく、小学校間の互見授業も推進した。互見授業における参加者からの報告内容は、校長会、小中連携推進委員会、各校職員会議にて適宜活用することとした。

③教科指導についての小中連携

小中連携推進委員会では、各校の学力向上の取組について情報交換を行った。定期テストや単元末テスト実施時における採点の在り方等、適切な評価を行うことについての留意点、補充学習及び家庭学習の実施状況等について協議した。

また、推進地区の課題である国語等における活用力を向上させるための方策についても協議し、本年度は国語科における読解力をつけるための指導の系統の在り方、教科指導における効果的なチーム・ティーチングや個別指導の在り方についても検討した。

(3) 放課後学習支援員を活用した補充学習の充実による基礎的・基本的な知識・技能の定着

退職教員等を活用して協力校の補充学習支援を行った。7人の退職教員の協力を得て、学年の状況に応じ、全体での指導及び個別的な指導を織り交ぜた取組を行い、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るようにした。

また、協力校で実施した学力定着に効果的な指導体制や学習教材等を、「小中連携推進委員会」や学校訪問等を通じて他校に普及するようにした。

3. 協力校における取組

(1) 全国学力・学習状況調査や和歌山県学習到達度調査を踏まえた授業改善や指導の工夫

- ①構造化された授業の板書等の工夫を生徒のノートづくりに生かした。
- ②メモをもとにしてノートに自分の考えをまとめたり、文章を要約して要旨を捉えたりする学習活動を行った。
- ③「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を踏まえた授業づくりと評価を実践した。
- ④年6回の校内授業研究会を充実させ、生徒の主体的な学びや思考力、判断力、表現力を高めるための授業改善につなげた。
- ⑤先進校調査研修で得られた先進校の取組の共有と実践を教職員全員で行った。

(2) 「Hyper-QUテスト」の活用

- ・生徒一人一人の状況と学習集団の意識を把握し、きめ細かな指導に生かした。
- ・平成29年1月に実施した結果を学習集団づくりや学級編制に生かした。

(3) 小中互見授業の推進による授業改善

- ①推進地区内の松原、和田小学校の授業を参観し、その後の協議で課題を共有した。
- ②本校教諭が、松原、和田小学校でそれぞれ音楽、算数の授業を行い、授業実践の交流を図った。

(4) 家庭学習の習慣化と質問教室・補充教室による学習意欲及び基礎学力の向上

①家庭学習の習慣化のための取組

各教科で家庭学習の提出と点検、評価を徹底した。

- ・第1学年では、「家庭学習の手引き」を活用した指導を徹底した。
- ・第2学年では、A4ノート1ページを毎日の自主勉強の課題とし、3学期からは、5教科（国

語、社会、数学、理科、英語)の問題集を、家庭学習の課題とした。

・第3学年では、5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の問題集を家庭学習の課題とした。

②質問教室

定期テスト前に、各教科で放課後1時間を質問教室として設定し、生徒の質問に対応した。

③昼食休憩

到達目標に至らなかった生徒への再テストや補習を実施し、生徒の学力の定着状況を確認した。

④放課後の補習

第1、2学年では、定期テストの結果から対象生徒を選び、第3学年では、全生徒を対象として、本校教員と学習支援員(退職教員)7名により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための補習を9月末から2月末まで、計102時間実施した。

2. 実践研究全体の成果(和歌山県)

(1) 研修による授業改善

毎年7月と12月に実施している「学力向上の取組に関するアンケート」の結果から、研修による授業改善が全県で進んでいると考える。12月のアンケート結果で「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を実践している教員の割合は小学校では94.4%となり、授業改善が確実に進んでいる。中学校でも、88.6%と改善しつつあるが、小学校に比べて課題がある。

【「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を実践している教員の割合】

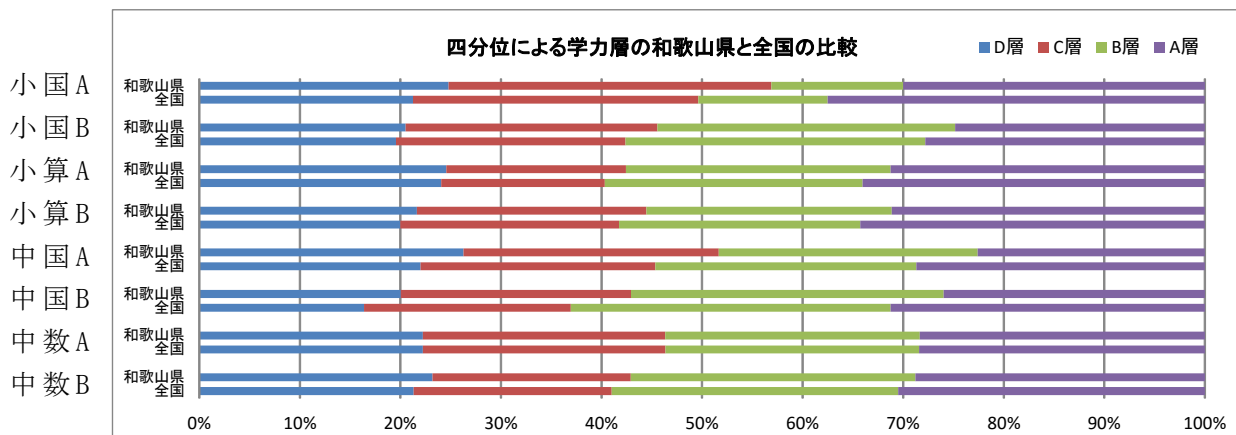
	H28.7	H28.12
小学校	90.8%	94.4%
中学校	83.9%	88.6%

(2) 学力調査による課題改善状況

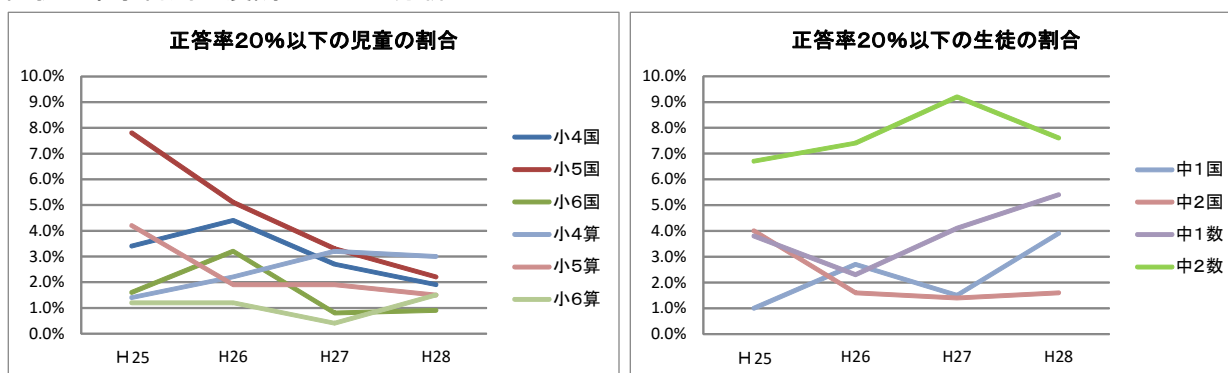
全国学力・学習状況調査結果の四分位による学力層の分析では、当県は全国と比較してD層の割合が高く、学力の下位層に対しての学力改善対策が課題となっている。平成28年度の結果でも当県のD層の割合は、中学校数学Aが全国平均と同程度であるが、残りの7調査で全国平均よりも高かった。

県学習到達度調査では、正答率20%以下の児童生徒の割合で学力の改善状況を分析している。毎年問題が違うので単純な比較はできないが、小学校調査では、学力の下位層の児童が減り県全体で学力の向上がみられる。中学校調査では、第2学年数学において、正答率20%以下の生徒の割合が調査開始以来改善せず課題がある。

平成28年度全国学力・学習状況調査結果の四分位による分析



和歌山県学習到達度調査による分析



3. 取組の成果の普及

当県では、平成22年度から、県内の幼稚園、小・中・高等学校及び特別支援学校で取り組んだ教育実践を交流し、教職員の教育実践の向上をめざして、和歌山教育実践研究大会を開催している。本年度は、平成29年1月28日に東牟婁地方で行い、約900名が参加し各校種の実践交流を行った。

また、県ホームページにおいて、域内の市町村教育委員会の取組と県内の研究授業及び研究発表会を紹介し、普及している。

○ 今後の課題

(1) 学力定着に効果的な指導方法、補充学習・家庭学習の充実

「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を踏まえ、付けたい力を明らかにした目標の提示、目標の達成に効果的な言語活動の充実、学習の定着状況を確認する振り返り活動の時間確保等、一層の徹底を図り、学習意欲を高める授業改善を進める。また、学力定着に課題を抱える児童生徒に対して、補充学習の指導体制を構築するとともに、長期休業中の補充学習プログラムを研究する。また、適切な家庭学習用教材を提供するとともに、先進県へ派遣した教員が作成した「家庭学習モデル」を活用し、家庭や地域と連携した家庭学習の定着について継続して研究する。

(2) 検証改善サイクルの確立

各市町村、学校において、当県が策定する「平成29年度学力向上対策」を踏まえた学力向上推進プランを作成し、全国学力・学習状況調査及び県学習到達度調査の自校採点、県教育委員会が提供するサンプル分析結果及び調査結果を徹底活用し、明らかになった課題を早期に改善するシステムを構築する。

(様式 2)

「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成28年度委託事業完了報告書

【推進地区】

都道府県名	和歌山県	番号	30
-------	------	----	----

推進地区名	美浜町
-------	-----

○ 推進地区として実施した取組内容

1. 研究課題

- (1) 「学力向上推進プラン」を活用した学力向上に係る検証改善サイクルの取組
- (2) 小中互見授業の推進による授業改善
- (3) 放課後学習支援員を活用した補充学習の充実による基礎的・基本的な知識・技能の定着

2. 研究課題への取組状況

(1) 「学力向上推進プラン」を活用した学力向上に係る検証改善サイクルの取組

①授業力向上に向けた支援

- ・授業研究会ならびに校内研修会等への指導主事の複数回派遣

「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の一層の充実を図った授業実践を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を通して思考力、判断力、表現力等を育成することを目標に校内研修会での指導・助言を行った。

推進地区内の和田小学校にて美浜町学力向上授業研究会を実施し、和田小学校の研究主題である「学ぶ意欲をもち、主体的に学習する児童の育成～国語科における読む力を高める指導を通して～」に添った国語科の授業及び研究協議で指導・助言を行った。

- ・外部講師招聘による研修

推進地区全体における教員の授業力向上を図ることを目的にして、外部講師招聘を行った。和歌山県教育庁教育企画監 牧野行治氏を迎え、「就学前からの学力向上の在り方について」と題して講演会を開催し、保幼小中連携を意識した学力向上の取組について指導していただいた。また、大和大学教育学部教育学科准教授 舟橋秀晃氏を招聘し、協力校である松洋中学校の授業研究に対して継続して指導していただいた。

②全国学力・学習状況調査結果の活用（資料1）

全国学力・学習状況調査結果の分析から、児童生徒の学力課題を把握し、課題に対する具体的な取組を早期に実行できるよう支援した。町教育委員会にて分析した町内全体の分析結果を示した上で、各校が自校の分析を行い、課題の改善に向けた取組を実行するように指導した。

取組の推進にあたっては、適宜学校訪問を行い、各校の取組状況を授業参観及び協議にて確認し、児童生徒の学力向上を図るため指導を行った。

(資料1) 平成28年度全国学力・学習状況調査結果（4月実施）

【平成28年度全国学力・学習状況調査（平均正答率%）】

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B	中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
美浜町	66.1	52.0	76.4	40.3	美浜町	76.7	66.0	65.9	44.6
国	72.9	57.8	77.6	47.2	国	75.6	66.5	62.2	44.1
差	-6.8	-5.8	-1.2	-6.9	差	1.1	-0.5	3.7	0.5

③和歌山県学習到達度調査結果の活用

全国学力・学習状況調査後の授業改善の効果を、12月6日（火）実施の和歌山県学習到達度調査結果により検証し、効果のあった取組について推進地区全体に広めるとともに、課題については推進地区全体で改善策の検討を進めるなど、取組の支援及び推進地区全体の学力向上を図った。

④「Hyper - QUテスト」の活用

協力校である松洋中学校において、「Hyper - QUテスト」を実施した。生徒の学級満足度及び学校生活意欲の分析結果を、生徒一人一人の状況と学級集団意識の把握に十分生かし、生徒へのきめ細かい指導や支援を行うことにより、学習意欲の向上につなげるよう指導した。

（2）小中互見授業の推進による授業改善

小中互見授業の取組を継続させるとともに、「小中連携推進委員会」にて検討した当町での成果や課題等をもとに、9年間の系統性を重視した推進地区独自の学力定着に効果的な授業形態や指導方法を共有した。

①小中学校での学習ルールの一貫

校長会及び小中連携推進委員会では各校の児童生徒の状況について情報交換し、学力向上に努めた。本年度の小中連携推進委員会では、学習規律の基盤として「チャイム行動の徹底」を確認した。授業はチャイムで始まりチャイムで終わることに留意することで、児童生徒の授業への集中力を高めさせるとともに教員の授業構成力の向上を図った。また授業展開として、学習の「めあて」と「まとめ」の提示等、「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の徹底を確認した。このことにより、町内全ての小中学校の学習ルールの一貫を図った。

②小中互見授業後の協議の支援

小中相互の課題を早期に発見し、課題解決に向けた推進地区共通の取組を進めることを目標に支援を行った。互見授業については、5月末から2月中旬までにほぼ全教員が実施した。本年度は、「授業内容及び指導方法」「児童生徒の様子等」に視点を定めて参観するようにした。また小中学校間だけでなく、小学校間の互見授業も推進した。互見授業における参加者からの報告内容は、校長会、小中連携推進委員会、各校職員会議にて適宜活用することとした。

③教科指導についての小中連携

小中連携推進委員会では、各校の学力向上の取組について情報交換を行った。定期テストや単元末テスト実施時における採点の在り方等、適切な評価を行うことについての留意点、補充学習及び家庭学習の実施状況等について協議した。

また、推進地区の課題である国語等における活用力を向上させるための方策についても協議し、本年度は国語科における読解力をつけるための指導の系統の在り方、教科指導における効果的なティーム・ティーチングや個別指導の在り方についても検討した。

（3）放課後学習支援員を活用した補充学習の充実による基礎的・基本的な知識・技能の定着

退職教員等を活用して協力校の補充学習支援を行った。7人の退職教員の協力を得て、学年の状況に応じ、全体での指導及び個別的な指導を織り交ぜた取組を行い、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るようにした。

また、協力校で実施した学力定着に効果的な指導体制や学習教材等を、「小中連携推進委員会」や学校訪問等を通じて他校に普及するようにした。

3. 実践研究の成果の把握・検証

（1）「学力向上推進プラン」を活用した学力向上に係る検証改善サイクルの取組

和歌山県学習到達度調査結果の経年比較（資料2）からは、推進地区内小学校での成果がみられた。平成28年度第4学年では、国語、算数の基礎及び活用問題の全ての

項目で県平均を大きく上回った。特に基礎問題では、国語で+11.6ポイント、算数で+9.4ポイント上回った。経年変化としては第5学年において国語基礎を除く3項目で昨年度の県平均との差を2～8ポイント上回った。第6学年においても国語活用を除く3項目で2～5ポイント上回った。さらに、第6学年では平成28年度全国学力・学習状況調査（資料1）において課題の大きかった算数科で改善の兆しがみられた。これは、平成28年度全国学力・学習状況調査の分析結果を踏まえた基礎的な学習内容についての指導の充実及び補充学習の徹底に努めた結果であると考えられる。しかしながら、活用問題については各学年とも成果が十分表れているとはいえない。

中学校においては、第1学年及び第2学年ともに明確な成果は表れていない。特に第2学年においては、国語活用において県平均との差が-21.1ポイント、経年変化でも7ポイント以上差が広がった。補充学習及び家庭学習に取り組んだものの、日々の授業における指導の充実及び形成的評価テストを活用した指導が十分ではなかったことが原因であると考えられる。

（2）小中互見授業の推進による授業改善

相互授業参観等により、小学校でのチャイム行動が促進されるとともに、中学校でもチャイム行動の徹底による成果が共有された。小学校においても学習規律の基礎となるチャイム行動の徹底により、学習規律が定着した。

相互授業参観後の協議では、小学校教員からは、小学校で最低限つけておくべき力として、素早く正確に長文を読むことができる力、素早く適切にノートを取ることができる力の必要性が提案され、小学校で、これまで以上にノート指導に重点がおかれるようになった。

中学校教員にとっては、小学校におけるペアやグループによる話し合いを取り入れた授業方法及び一人一人にきめ細かく対応する授業スタイルなどが参考となり、授業改善の方向性を共有することができた。

さらに小学校同士の相互訪問では、板書、ノート指導、授業展開等を自らの実践と照らし合わせることで、児童への効果的な指導方法についての活発な協議を計画的に実行することができた。

（3）放課後学習支援員を活用した補充学習の充実による基礎的・基本的な知識・技能の定着

退職教員を活用した放課後補充学習の取組状況からは、取組当初と比較して協力校における生徒の落ち着いた学習態度がみられ、学習意欲の向上により、基礎学力の定着につなげることができつつある。特に第3学年は、学年のほとんどの生徒が放課後補充学習に参加し、学習習慣の定着に資することができた。次期学習指導要領で求められるカリキュラム・マネジメントの実現を図るために、地域の外部人材を学力向上をめざした教育活動に効果的に活用することができた。

(資料2) 和歌山県学習到達度調査結果の経年比較

【平成27年度和歌山県学習到達度調査(平均正答率%)】

小学校 第4学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	算数 (基礎)	算数 (活用)	小学校 第5学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	算数 (基礎)	算数 (活用)
美浜町	62.9	51.2	66.4	30.3	美浜町	53.0	38.7	61.4	54.6
和歌山県	61.3	55.6	69.4	38.3	和歌山県	60.6	41.6	65.0	58.2
差	1.6	-4.4	-3.0	-8.0	差	-7.6	-2.9	-3.6	-3.6

小学校 第6学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	算数 (基礎)	算数 (活用)
美浜町	77.5	42.2	83.0	67.7
和歌山県	71.2	47.5	79.5	65.3
差	6.3	-5.3	3.5	2.4

中学校 第1学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	数学 (基礎)	数学 (活用)	中学校 第2学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	数学 (基礎)	数学 (活用)
美浜町	63.5	39.6	72.9	26.3	美浜町	65.8	54.4	64.5	43.3
和歌山県	66.6	53.3	71.7	36.3	和歌山県	67.2	70.7	61.3	41.0
差	-3.1	-13.7	1.2	-10.0	差	-1.4	-16.3	3.2	2.3

【平成28年度和歌山県学習到達度調査(平均正答率%)】

小学校 第4学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	算数 (基礎)	算数 (活用)	小学校 第5学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	算数 (基礎)	算数 (活用)
美浜町	85.9	31.7	74.0	38.1	美浜町	64.9	47.2	70.9	52.0
和歌山県	74.3	31.2	64.6	35.9	和歌山県	64.0	47.4	65.6	57.2
差	11.6	0.5	9.4	2.2	差	0.9	-0.2	5.3	-5.2

小学校 第6学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	算数 (基礎)	算数 (活用)
美浜町	72.9	43.1	77.7	56.4
和歌山県	75.4	51.2	75.7	57.5
差	-2.5	-8.1	2.0	-1.1

中学校 第1学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	数学 (基礎)	数学 (活用)	中学校 第2学年	国語 (基礎)	国語 (活用)	数学 (基礎)	数学 (活用)
美浜町	67.2	39.6	64.2	45.5	美浜町	60.2	28.6	51.8	33.9
和歌山県	62.3	46.9	63.9	49.2	和歌山県	64.1	49.7	61.0	46.9
差	4.9	-7.3	0.3	-3.7	差	-3.9	-21.1	-9.2	-13.0

4. 今後の課題

平成28年度全国学力・学習状況調査及び平成28年度和歌山県学習到達度調査の結果等を踏まえ、次年度に向けた課題と取組を以下に示す。

(1) 活用する力の育成

学力向上推進プランを活用した検証改善サイクルの取組を支援するとともに、今年度の推進地区の課題である活用問題に対応するためには、基礎的な語彙量を確保する指導、書くことの指導、考える場面の確保等が必要であると考え。よって、以下の手立てを行う。

①読む量(読書)、辞書引き量、書く量(視写、聴写、感想文、要約)を確保した学習機会の設定

- ②条件に従って書かせる指導（字数制限、時間制限、形式制限、内容制限等）の充実
- ③論理的に表現する指導の充実
- ④読解力系統表の指導事項にもとづく授業実践

（２）小中連携を意識した授業改善の充実

推進地区全体としては、全国学力・学習状況調査及び和歌山県学習到達度調査における児童生徒の学力状況は十分なものではなかった。特に活用問題では成果を出すことができなかった。活用問題に対応できる児童生徒を育成するには、日々の授業の充実が必要である。よって、相互授業参観等小中連携の取組における授業改善を継続させるとともに、以下の手立てを行うこととする。

- ①「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」の徹底を行うこと
- ②整理された板書づくりを行うこと
- ③考えを深めさせる発問を行うこと
- ④問いに正対した解答を習慣付けること
- ⑤教えて考えさせる授業を行うこと

（３）基礎・基本の定着

補充学習について、放課後学習支援員の活用を継続するとともに、授業中、補充学習時、家庭学習時において以下の点に留意した取組を行う。

- ①和歌山県教育委員会から提供された「チャレンジ確認シート」「評価問題」「国語マスター問題集」等を活用した繰り返し学習の充実を図ること
- ②ノート指導を徹底すること
- ③「家庭学習の手引き」を活用した学習習慣の確立を図ること

(様式3)

「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成28年度委託事業完了報告書

【協力校】

都道府県	和歌山	番号	30
------	-----	----	----

協力校名	和歌山県美浜町立松洋中学校
------	---------------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 当初の課題

・平成27年度全国学力・学習状況調査結果等からの課題

- ① 国語A・B、数学A・B、理科はいずれも全国平均を0.2から0.6ポイント下回っている。
- ② 国語では、知識を活用し、状況に応じた効果的な資料作成や資料提示をして話したり書いたりすること、文章を要約したり要旨を捉えたりすることに課題がある。
- ③ 国語では、国語への関心が低いなど学習意欲に関する内容に課題がある。
- ④ 数学では、数学的な見方や考え方、数学的な技能に課題がある。
- ⑤ 理科では、知識理解、科学的な思考に課題がある。
- ⑥ 授業では、学習した用語を使い、理由、根拠、方法、考え方などを表現する活動を取り入れるなどの工夫が十分行われておらず、指導方法に課題がある。
- ⑦ 家庭での学習時間が短く、家庭学習の習慣が定着していないことに課題がある。

2. 協力校としての取組状況

(1) 全国学力・学習状況調査や和歌山県学習到達度調査を踏まえた授業改善や指導の工夫

- ① 構造化された授業の板書等の工夫を生徒のノートづくりに生かした。
- ② メモをもとにしてノートに自分の考えをまとめたり、文章を要約して要旨を捉えたりする学習活動を行った。
- ③ 「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を踏まえた授業づくりと評価を実践した。
- ④ 年6回の校内授業研究会を充実させ、生徒の主体的な学びや思考力、判断力、表現力を高めるための授業改善につなげた。
- ⑤ 先進校調査研修で得られた先進校の取組の共有と実践を教職員全員で行った。

(2) 「Hyper-QUテスト」の活用

- ・生徒一人一人の状況と学習集団の意識を把握し、きめ細かな指導に生かした。
- ・平成29年1月に実施した結果を学習集団づくりや学級編制に生かした。

(3) 小中互見授業の推進による授業改善

- ① 推進地区内の松原、和田小学校の授業を参観し、その後の協議で課題を共有した。

- ② 本校教諭が、松原、和田小学校でそれぞれ音楽、算数の授業を行い、授業実践の交流を図った。

(4) 家庭学習の習慣化と質問教室・補充教室による学習意欲及び基礎学力の向上

① 家庭学習の習慣化のための取組

各教科で家庭学習の提出と点検、評価を徹底した。

- ・第1学年では、「家庭学習の手引き」を活用した指導を徹底した。
- ・第2学年では、A4ノート1ページを毎日の自主勉強の課題とし、3学期からは、5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の問題集を、家庭学習の課題とした。
- ・第3学年では、5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の問題集を家庭学習の課題とした。

② 質問教室

定期テスト前に、各教科で放課後1時間を質問教室として設定し、生徒の質問に対応した。

③ 昼食休憩

到達目標に至らなかった生徒への再テストや補習を実施し、生徒の学力の定着状況を確認した。

④ 放課後の補習

第1, 2学年では、定期テストの結果から対象生徒を選び、第3学年では、全生徒を対象として、本校教員と学習支援員（退職教員）7名により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための補習を9月末から2月末まで、計102時間実施した。

3. 取組の成果の把握・検証

(1) 協力校としての成果

外部講師（舟橋准教授）を招聘したことや、県教育委員会及び町教育委員会指導主事の訪問指導により、教員の授業改善に対する意識向上がみられ、授業の準備、授業の流れ、教材の工夫等が改善した。指導主事を交えた研究授業や公開授業の回数が増え、その後の研究協議での発言も積極的なものになってきている。研究協議はワークショップ形式のKJ法で行っているが、教科の壁を感じさせることなく、ベテラン教員も若手教員も隔てなく意見を述べることができている。回を重ねるにつれ、参観した授業の課題を鋭く指摘し、改善点についても見出すことができるようになってきた。全教職員による研究協議を繰り返すことにより、生徒にとってわかりやすい授業を目指し、個々で行っていた良い取組を共有できるようになった。若手教員が多くのことを吸収し、授業づくりが充実してきている。

若手教員を中心に先進校視察を行い、良い授業、工夫のある授業を見ることにより、自身の授業改善に生かしており、学校全体で共有できている。また、生徒の授業に向かう姿勢も良くなってきており、ペア学習やグループ学習にも慣れ、その中で、自分の意見をはっきりと述べる事が出来る生徒が増えてきている。今回、QUテストを実施することにより、学校全体として生徒同士の良好な人間関係が構築されていることがわかった。QUテストの結果をもとにペア学習やグループ学習での班員構成を心がけ、指導に生かすことができた。今後の取組にさらに生かす予定である。

(2) 全国学力・学習状況調査結果から

平成28年度全国学力・学習状況調査結果の正答率を全国平均と比較すると国語B以外は、概ね全国平均程度といえる(表②)。小学校第6学年で実施した平成25年度の調査結果と比較すると、すべての調査結果が改善している(表①、②)。

生徒質問紙では、「学校で、好きな教科がありますか」の質問の肯定的回答の割合が、91.8%と全国平均79.9%を大きく上回っている。一方、「国語の勉強は好きですか」「数学の勉強は好きですか」の質問は全国平均を大きく下回っている。また、「国語の授業の内容はよくわかりますか」「数学の授業の内容はよくわかりますか」の質問でも全国平均を大きく下回っており、4月の調査結果からは、生徒がわかったと実感できる授業の実現が喫緊の課題であるとする。

(表①) 平成25年度全国学力・学習状況調査結果 (平均正答率%)

小学校第6学年	国語A	国語B	算数A	算数B
美浜町	61.4	44.9	78.2	58.0
国	62.7	49.4	77.2	58.4
差	-1.3	-4.5	+1.0	-0.4

(表②) 平成28年度全国学力・学習状況調査結果 (平均正答率%)

中学校第3学年	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	76.7	66.0	65.9	44.6
国	75.6	66.5	62.2	44.1
差	+1.1	-0.5	+3.7	+0.5

(3) 和歌山県学習到達度調査結果から

第1学年は、県平均と概ね同程度である。しかし、小学校からの経年変化からは国語、数学ともに県平均との差が大きくなっている。補充学習、家庭学習等の充実による基礎的な指導事項の徹底を図った結果、基礎的・基本的な学力の定着がみられたが、学力の改善につなげることができていない。

第2学年は、県平均を大きく下回っており、小学校からの経年変化からも国語、数学ともに県平均との差が大きくなっている。

補充学習、家庭学習等の充実による基礎的な指導事項の徹底を図るとともに、取組の成果による教員の意識改善と授業力向上を学力の改善につなげていきたい。

平成27年度和歌山県学習到達度調査結果 (平均正答率%)

小学校第6学年	国語(基礎)	国語(活用)	算数(基礎)	算数(活用)
美浜町	77.5	42.2	83.0	67.7
和歌山県	71.2	47.5	79.5	65.3
差	6.3	-5.3	3.5	2.4

中学校第1学年	国語（基礎）	国語（活用）	数学（基礎）	数学（活用）
本校	63.5	39.6	72.9	26.3
和歌山県	66.6	53.3	71.7	36.3
差	-3.1	-13.7	1.2	-10.0

平成28年度和歌山県学習到達度調査結果（平均正答率%）

中学校第1学年	国語（基礎）	国語（活用）	数学（基礎）	数学（活用）
本校	67.2	39.6	64.2	45.5
和歌山県	62.3	46.9	63.9	49.2
差	4.9	-7.3	0.3	-3.7

中学校第2学年	国語（基礎）	国語（活用）	数学（基礎）	数学（活用）
本校	60.2	28.6	51.8	33.9
和歌山県	64.1	49.7	61.0	46.9
差	-3.9	-21.1	-9.2	-13.0

（4）教科学習についての生徒アンケートについて

「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を踏まえた授業づくりを進めた結果、「今まで受けた授業は、授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う」「今まで受けた授業は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」の質問について、肯定的な回答が増加した。また、4月の全国学力・学習状況調査で課題のみられた「授業がよくわかる」の質問についても、肯定的な回答が増加した。

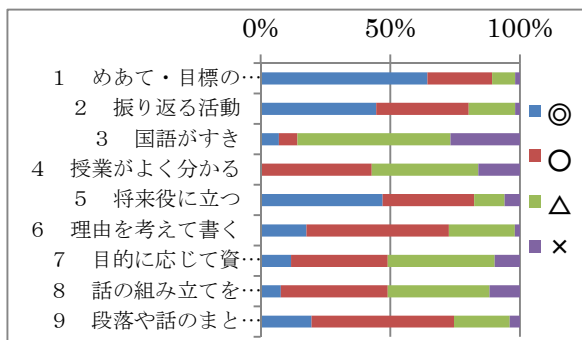
一方、「国語の勉強は好きだ」「数学の勉強が好きだ」の質問項目については、肯定的な回答が減少している。また、平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から明らかになっていた課題である、学習した用語を使い、理由、根拠、方法、考え方などを表現する活動を取り入れるなどの工夫について、質問項目でも肯定的な回答が減少しており、さらなる指導方法の改善を進めていく必要がある。

① 国語科の質問事項

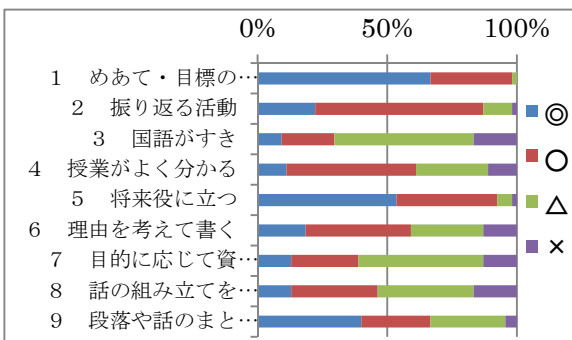
- 1 今まで受けた授業は、授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う
- 2 今まで受けた授業は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う
- 3 国語の勉強は好きだ
- 4 国語の授業の内容はよくわかる
- 5 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- 6 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気を付けて書いている
- 7 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている
- 8 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している
- 9 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいく

② 国語科のアンケート結果

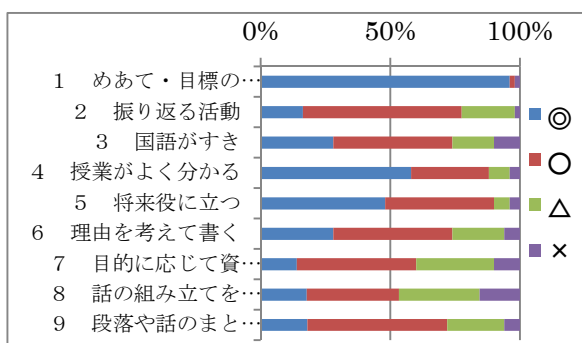
第1学年 10月



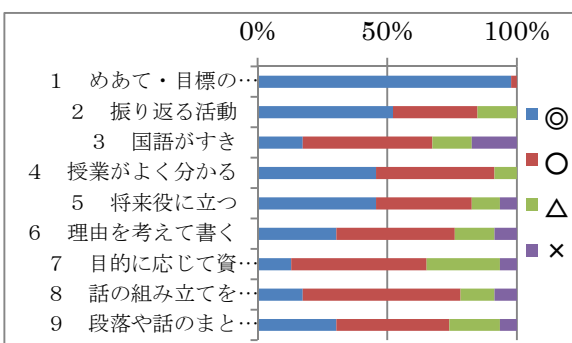
第1学年 2月



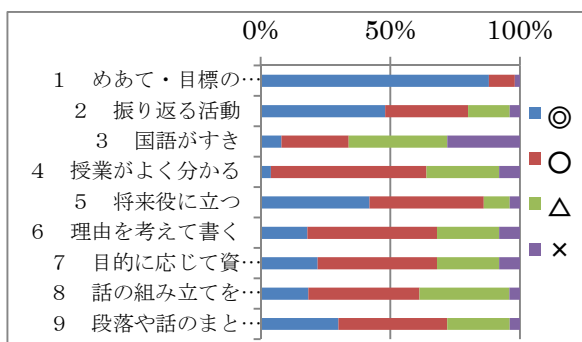
第2学年 10月



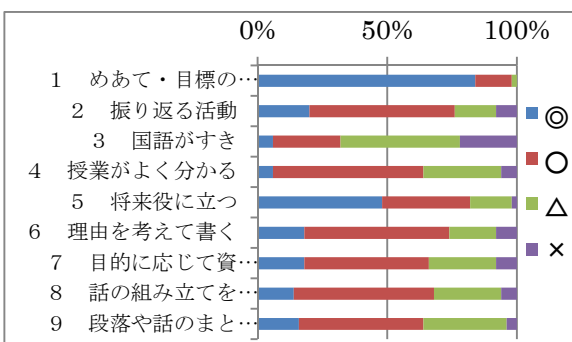
第2学年 2月



第3学年 10月



第3学年 2月

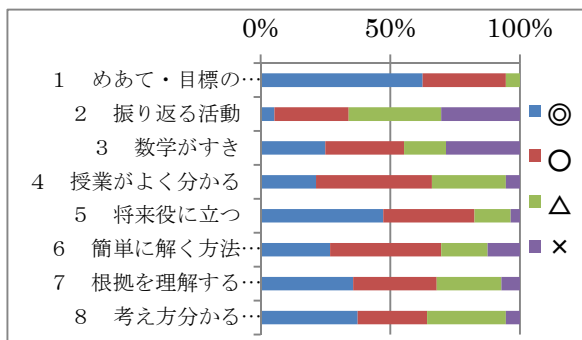


③ 数学科の質問事項

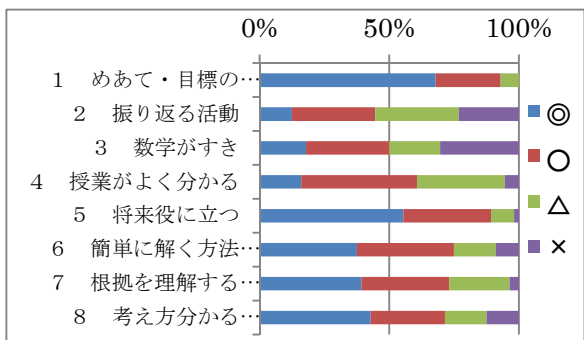
- 1 今まで受けた授業は、授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う
- 2 今まで受けた授業は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う
- 3 数学の勉強は好きだ
- 4 数学の授業の内容はよくわかる
- 5 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
- 6 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える
- 7 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている
- 8 数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている

④ 数学科のアンケート結果

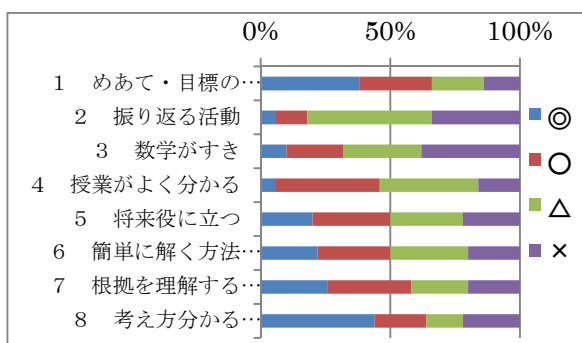
第1学年 10月



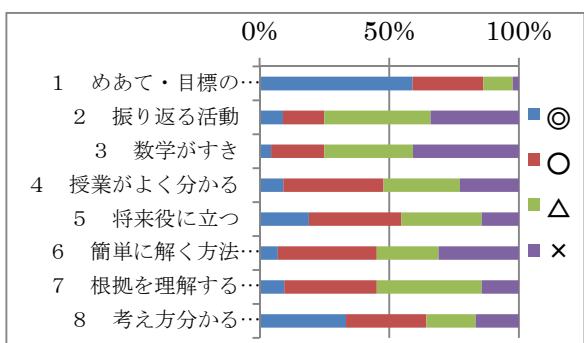
第1学年 2月



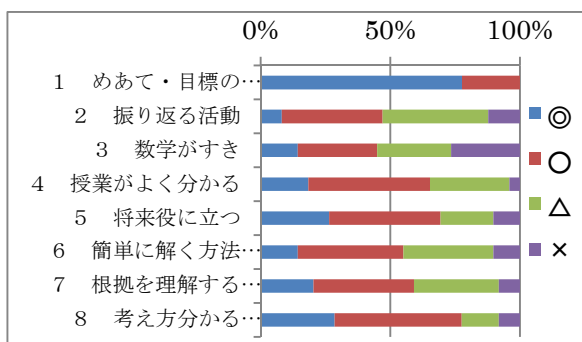
第2学年 10月



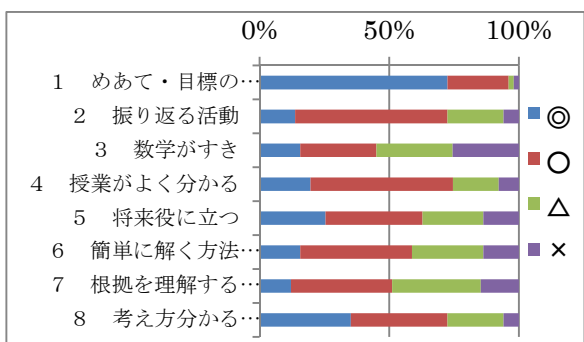
第2学年 2月



第3学年 10月



第3学年 2月



4. 今後の課題

本年度の取組から教員の意識改善と、生徒が分かったと実感できる授業改善が進んでいるが、生徒が興味・関心を持ち主体的に取り組める授業実践までは至っておらず、学力の向上につながっていない。授業改善と学力の定着を確実に進めるため、次年度は、以下の8点について取り組む。

- ① 基礎的・基本的な内容の習得と定着
- ② 国語、数学等の教科内容に関心を持ち、主体的に学ぶ態度の育成
- ③ 国語力の育成、特に読解力の育成
- ④ 学習した内容をもとにして考え、理由や根拠を明らかにして表現する力の育成
- ⑤ 家庭学習の習慣化と充実
- ⑥ 家庭学習（予習、復習）と関係づけた授業の工夫
- ⑦ 相互に学び合う学習集団の育成
- ⑧ 小学校と連携した具体的な取組の一層の推進